

NPOきらきら発電・市民共同発電所オンライン講演会

「石徹白での挑戦」

講師＝NPO法人地域再生機構副理事長 平野彰秀さん

5月25日(水)午後2時～午後3時半

舞台は古くから信仰の対象とされてきた白山のふもと、岐阜県郡上市石徹白(いとしろ)という、人口270人の小さな集落。標高700mにあるこの集落で代々暮らしてきた人々と協力し、自然エネルギー小水力発電に端を発した「持続可能な農村」のあり方を模索する姿を、「NPO法人地域再生機構」副理事長の平野彰秀さんに紹介していただきます。



2016年石徹白番場清流発電所を集落全戸の出資で新設→若い人の移住が実現

小水力発電所建設を考えた石徹白の皆さんは、2014年に高齢者単身世帯も含めた集落ほぼ全戸が合計800万円を出資して、集落独自の農協を設立。その農協の理事が保証人となって6,000万円の銀行融資を受け、公的補助金も加え、総工費2億3千万円をかけて125kw出力の「石徹白番場清流発電所」を建設しました。この小水力発電が呼び水となって、石徹白への訪問人口が増加。それと連動して、石徹白のあちこちで大小さまざまな取り組みが行われるようになりました。

さらに若者の移住で新しい動きも生まれています。地域の伝統的な野良着を復活させ、直線裁ちのみで構成されるズボンや上着を制作・販売する「石徹白洋品店」。自然栽培で野菜を育てる「サユールイトシロ」や化学農薬・化学肥料を使わずフルーツほおずきやお米を育てる「えがおの畑」など、自然栽培に取り組む若手農家が移り住み、活躍しています。今や人口の2割近くが移住者です。

地域再生機構では、石徹白での成功をもとに、「地域住民が事業主体となった小水力発電事業」を実現するための「自然エネルギー学校」という取組みを始めました。岐阜県内の4ヶ所にとどまらず、鳥取などで、地域住民が事業主体となった小水力発電事業と地域づくりの活動が始まりつつあります。

オンライン参加申し込み先

h-mitobe@wa2.so-net.ne.jp

又は、下記QRコードから

- ・参加費無料
- ・申込みは5月21日まで



きらきら発電市民共同発電所

〒981-3215

仙台市泉区北中山3丁目17-12

電話 070(2010)3777

HP kirakirahatuden.com/